

<取材のお願い>

2023年8月16日

人間環境大学

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

ラオスの学生が水環境浄化の技術を学ぶ

～ 愛知県を起点とした環境分野の国際的頭脳循環を目指して ～

人間環境大学では、8月23日（水）～8月29日（火）、ラオス国立大学から大学生3名、大学院生1名、教員1名、計5名を招へいし、水環境の浄化技術に関する国際交流プログラムを実施します。

ラオスは手つかずの自然がいたるところに存在し、鳥獣や植物、農業などの研究者にとって非常に魅力的な研究フィールドです。しかし、近年は環境破壊などの危機に直面しています。本プログラムでは、ラオスの優秀な若者が、環境保全に必要な分析と汚染した場合の対策技術について、水環境浄化技術に焦点を絞って学びます。さらに、愛知県内の各機関の協力のもと、多くの日本の学生、研究者らと積極的に交流し、愛知県を起点とした環境分野での国際的頭脳循環の促進を目指します。

今回のプログラムは、水環境の現状把握のために水質分析を中心に行います。まず、ラオスの学生たちは、本学の実験科目として定期的に調査を行っている岡崎市の三和湖（ダム湖）で採水し、本学の学生とともに分析装置を用いて無機物の分析を行います。次に、愛知県立岡崎工科高校を訪問し、校内の分析装置を用いて、同校の生徒とともに、流入の可能性がある農薬等の微量汚染物質を分析します。さらに、名古屋大学グリーンビークル材料研究施設にて、環境浄化技術について学ぶほか、磁性吸着材料の分析評価に必要な機器を体験します。また、名古屋港水族館では、水質の維持管理に必要な浄化技術のメカニズム等を学びます。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。2014年の事業開始以来、約35,000名以上の青少年が来日し、そのうち約7%が学術や就業を目的として再来日しています。

<https://ssp.jst.go.jp/>



つきましてはラオスの学生らが、日本の学生とともに水質調査・分析をする様子、講義で水質浄化について学ぶ様子、分析結果を発表する様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の神本祐樹教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

【実施内容】

- 三和湖の水質調査 ●水質分析 ●水質浄化に関する講義・体験
- 生態系と環境の関係についての講義 ●分析結果発表 ●意見交換会

【研修日程概要】

8月23日(水)	午前：オリエンテーション(人間環境大学岡崎キャンパス) 午後：調査準備(同上)
8月24日(木)	午前：調査(三和湖、岡崎市) 午後：水質分析 前処理・無機物(人間環境大学岡崎キャンパス)
8月25日(金)	午前：水質分析 無機物(人間環境大学岡崎キャンパス) 午後：水質分析 有機物(愛知県立岡崎工科高校)
8月26日(土)	午前：水質浄化に関する講義(名古屋大学) 午後：水質浄化技術の体験(同上)
8月27日(日)	終日：生態系と環境の関係を学ぶ(名古屋港水族館)
8月28日(月)	午前：分析結果まとめ(人間環境大学岡崎キャンパス) 午後：分析結果発表、意見交換会(同上)
8月29日(火)	午前：離日

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

人間環境大学

担当：事務局総務課

(担当：宮城)

■国際青少年サイエンス 交流事業(さくらサイエンスプログラム)に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

(担当：田中(禎)、太田)